

展示会 — Exhibition

入場無料

2020年

1月14日(火) ▶ 1月26日(日)
8:30~17:00

習志野市役所 ^{グランド707} GF・1階展示コーナー



講演会 — Lecture

入場無料

2020年

1月26日(日) 13:00~16:30
(12:30開場)

習志野市役所 ^{グランド707} GF大会議室

定員
150名
申込不要

講演1

伝える「思い」— ボトルシップに込められたもの
星 昌幸 (習志野市農業委員会事務局)

報告

指定文化財「ドイツ捕虜関係資料」について
— 「ボトルシップ」と「エーリッヒ・カウルの日記」を観察する—
松浦 史浩 (習志野市教育委員会)

講演2

「エーリッヒ・カウルの日記」の翻訳を終えて
宗宮 好和 (千葉県日独協会名誉会長・千葉大学名誉教授)

講演3

ハイデルベルグ大学のデジタル青島アーカイブと習志野収容所にいたドイツ兵捕虜
— 新しい史料—
メルバー・琢磨 (ハイデルベルグ大学)



Narashino Prisoner of war camp
Kriegsgefangenenlager Narashino
1915-1920

主催/習志野市教育委員会 Narashino City Board of Education

協力/千葉県日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba



習志野俘虜収容所

ドイツ捕虜解放100周年記念行事

ナラシノの記憶

— ドイツ兵たちの記録が語るもの —



第一次世界大戦（1914～1918）のとき、日本とドイツは中国の青島（チンタオ）で戦火を交え、その結果、捕虜となった約5千人のドイツ及びオーストリア・ハンガリーの将兵が、日本各地の捕虜収容所に収容されました。

習志野俘虜収容所は、現在の習志野市東習志野の一角に1915年（大正4年）9月に設置されました。この場所で、多いときには約千人のドイツ兵が、遠い祖国を思いながら暮らしていたのです。

彼らは捕虜生活の中で、音楽活動やスポーツなどの多彩な活動を行い、地域の人々とも交流していました。

ドイツ兵たちが解放されたのは、1919年12月から1920年1月にかけてで、今からちょうど100年前のことです。



習志野捕虜オーケストラ



新指定文化財「ドイツ捕虜関係資料」



エーリッヒ・カウルの日記



ボトルシップ（第1号）



ヨハンネス・ユーバーシャル博士旧蔵写真

令和元年9月、習志野市教育委員会は、習志野俘虜収容所のドイツ兵が作製したと考えられる歴史資料3件132点を「ドイツ捕虜関係資料」として習志野市指定有形文化財（歴史資料）に指定しました。

指定した資料の1件目は、ドイツ兵が習志野での捕虜生活を綴った「エーリッヒ・カウルの日記」です。

2件目は、「ヨハンネス・ユーバーシャル博士旧蔵写真」です。ドイツ兵が所蔵していた写真であり、当時の収容所の様子やドイツ兵たちの暮らしを知ることができます。

3件目は、ドイツ兵が近隣の住民に贈ったと伝わる2点の「ボトルシップ」です。いずれも100年前の歴史を今に伝える貴重な資料です。

今回のドイツ兵解放100周年記念行事では、新指定文化財をはじめとするドイツ捕虜関係資料を特別展示するとともに、講演会では習志野俘虜収容所の概要や新指定文化財の詳細についてご紹介します。



交通アクセス — Access

〒275-8601 千葉県習志野市鷺沼2-1-1
電車：京成電鉄「京成津田沼駅」から徒歩7分
バス：JR「津田沼駅」から京成バス幕張本郷駅行き「習志野市役所」下車、徒歩2分
駐車場あり

お問い合わせ — Contact address

習志野市教育委員会 社会教育課 文化財係
TEL：047-451-1151（内線462）
FAX：047-453-9384
e-mail：manabi@city.narashino.lg.jp

ドイツ捕虜収容所ガイドブック

『ドイツ兵たちの習志野』
習志野俘虜収容所の概要やドイツ兵の活動などを紹介
発売日 2020年1月下旬
販売価格 300円（税込）
販売場所 社会教育課窓口
郵送でも販売
詳しくは市ホームページで「市史刊行物」と検索！

